オススメ記事
日経トレンディ2019年04月号

オススメ記事
市場拡大する甘酒　女性に人気のパッケージはどっち？

オススメ記事
高級パン切り包丁選手権 ビクトリノックスVS話題のタダフサ

トレンド・フォーカス

日比野克彦プロデュース　上野文化発信の新プロジェクトの狙い

2018年11月02日

東京・上野にある上野恩賜公園を中心に2018年9月末から、「UENOYES（ウエノイエス）」プロジェクトが始まった。人種や国を超えて上野文化を発信するさまざまなプログラムを展開するもので、上野文化の杜新構想実行委員会とアーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）が進める。東京藝術大学美術学部長である日比野克彦氏が総合プロデューサーとなり、世界に向けて上野の文化を発信していくことを目指す。

キックオフイベントとして2018年9月28～30日の3日間、「UENOYES バルーンDAYS 2018」が開催された。今後は11月に、「地元回遊プログラム」として谷中界隈の民家等での作品展示や街全体を使ったイベントを実施。京成電鉄と東京藝術大学の協働プログラムとして、東京都選定歴史的建造物に選ばれた「旧博物館動物園駅」駅舎での作品展示なども予定されている。

[画像のクリックで拡大表示]

UENOYESは、上野文化の杜新構想実行委員会とアーツカウンシル東京が、2016年と2017年に手がけた「TOKYO数寄フェス」というアートプロジェクトから生まれたものだ。

上野文化の杜新構想実行委員会の会長であり、東京藝術大学学長特別補佐・美術学部彫刻科教授でもある北郷悟氏は「UENOYESでは、アート作品を見てもらうというよりも、今生きている全ての人と一緒に何ができるか。その方法を上野から日本中へ広めていきたい」と話す。

そのために総合プロデューサーとして迎えられたのが日比野克彦氏だ。「日比野さんは昔からよく知っている人。数寄フェスにも参加していただいているし、何よりもまず上野をよく知っている人だから」（北郷氏）というのが起用の理由だ。

人気記事ランキング　[トレンド・ヒット]

現在		昨日	一週間
1	ゴルフバッグが1つも入らない？ 割り切りの新美学レクサスUX		
2	かわいい顔して守りが固いリュック？　ドイツの意外性あるグッズ		
3	昭和の家電のミニチュア、かざすだけWi-fi、驚きの技術モノ集合		
4	『孤独のグルメ』にも登場！ 店主夫婦に癒やされる路地裏の名店		
5	コッペパンもこんがり　デロンギの最新ホットサンドメーカー		
6	いまさら聞けないトゥミ（TUMI）入門（1）「トゥミといえば○○だ」		
7	インスタントラーメン大研究 半世紀に渡る進化の歴史と次の商品		
8	炭酸水は身体に良い？ 悪い？ 5つの疑問に答える		
9	高級ダウン「カナダグース」都心で大増殖のなぜ		
10	日経トレンディ2019年04月号		

「この話を受けて一番最初に思ったことは、上野の“何でも受け入れる空気感”をしっかりと発信することの重要性」という日比野氏は、これまで地域芸術祭の監修や作品をいくつも手がけてきた。新潟県越後妻有での「大地の芸術祭」や「六本木アートナイト」がその代表例だ。どのプロジェクトも、その土地に合った、その土地の良さを引き出している印象があるが、今回、東京・上野という場所についてはどうか。

「大地の芸術祭のときは、土地の持つ力を最大限に生かすことを意識し、作っていった。上野にも自然はたくさんあるが、これは人間が作った自然。だから上野の主役は“人間だ”と感じた。また、同じ東京で行った六本木アートナイトは、年に1回のオールナイトアートイベントだったが、これは六本木が持つ力があってできたこと。昔からのアートの拠点である上野と、ここ10～15年でアートの拠点となった六本木を対比して考えて浮かんだのがバリアフリーだ。六本木で車椅子の方や障害を持った方も全員が楽しめるプログラムを考えようとすると大変だが、公園ならそもそもバリアフリー。そこへ、自分の今までの経験値を足しながら、どのようにアートが関わっていくことができるのかを考えていった」（日比野氏）

スタチュー写生大会の参加者と会話をする日比野氏（写真右）と宮田長官

[画像のクリックで拡大表示]

キックオフイベントは晴天でスタート

9月28日のバルーンDAYS1日目は晴天に恵まれ、さまざまなアート作品と風船が、上野恩賜公園を彩った。午前中には、文化庁の宮田亮平長官と日比野氏による各アート作品のガイドツアーが行われた。

文化庁の宮田長官と日比野氏。2人にも水色の風船がくっついている

[画像のクリックで拡大表示]

「形あるもので空間を占めるのではなく、人が集まることで空気感が見えてくる。そういうものをイメージしたときに風船が浮かんだ。風船を身につけることでどこかに連れて行ってもらえる気がしたり、風船を持っている者同士がす

[PR] 【最大90%OFF】今話題の
限定・割引価格！- LUXA -

ピックアップ PR

ファーウェイのタ
して、仕事をもっと

人生100年時代の
による精密医食同

人手不足に悩む配
「配送見える化ソ

データを使って消
ことがQoL向上に

NIKKEI STYLE

TRENDY SPECIAL ハイスペックスマホ、タブレットが大集合！
最先端デジタルガジェット通信

週刊 日経 TRENDY
-ポッドキャスティング-

インフォメーション

福岡発のゲームクリエイター発掘イベント 1044作品から大賞選ぶ

渋谷ヒカリエのカフェ&レストランが働く女性向けにリニューアル

日常の新たな“きっかけ”を提供する「世田谷百貨店」

カロッツェリアが車載用スマートフォンクレイドルを発売

「満寿泉」の日本酒を「シーバスリーガル」の樽で熟成、ブレンドした『リンク 8888』

渋谷ヒカリエで47都道府県の健やかなデザインに触れる

編集部からのお知らせ

スマホ画面に「日経トレンディネット」を登録して簡単アクセス

「日経BP／格安航空券（国内）最安値情報」サイト終了についてのご案内

れ違うときに何かが起きそうと感じたりするワクワク感がUENOYESの発信するものと通じるなと思い、バルーンデイズと名付けた」（日比野氏）

各作品や来場した一人ひとりのバルーンが目印になり、そのバルーンの下に誰かが集まって、ひとつになれるのが3日間のバルーンDAYS。屋外でのアートイベントということで、通りがかりに参加する人も多く見られた。すれ違うときに風船同士が絡まってしまい、お互いに笑いながら「すみません」と言葉を交わすなど、風船を持っていることによって会話が生まれる様子もよく見かけた。バルーンDAYSの準備中には、「形のないものを伝えようとしているから、いくら準備しても何か足りないんじゃないかと直前まで不安だった」と日比野氏は言うが、このようなエピソードがバルーンDAYSの至るところで発生していて、これこそが上野の“何でも受け入れる空気感”を表現しているのではないかと感じた。

プレスもゲストもガイドも、全員風船をつける
[画像のクリックで拡大表示]

楽しい音が鳴る楽器。このスピーカーは東日本大震災の津波で流れてきたものだという
[画像のクリックで拡大表示]

日経トレンディネットは3月31日に更新終了、日経クロストレンドへ統合します
「週刊TRENDYnet」「日経トレンディネットメール」名称・発行頻度変更のお知らせ
古いブラウザー、OSでご利用できなくなります
一覧へ
重要なお知らせ
日経BP社を名乗る者からの金融商品に関する勧誘にご注意下さい
日経BP社からのご案内
雑誌・書籍のご購入
雑誌・書籍に関するお問い合わせ
広告資料請求のご案内
インターネットサービス一覧
会社案内
English Site

参加型アートも多く見られた
[画像のクリックで拡大表示]

風船を空に描くパフォーマンスの様子
[画像のクリックで拡大表示]

UENOYESが目指すもの

上野には、公園を中心に、美術館や博物館、動物園など数多くの芸術・文化施設があり、このような場所は世界中探してもなかなかない。上野なら「動物園で動物を見たあとに、その動物を描いた掛け軸を博物館の伝統工芸品の中に見つけることもできるし、各館を巡った後に広場の噴水の前で物思いに耽ることもできる」（日比野氏）のだ。

ただ、UENOYESが伝えたいことはこのような上野の特性の紹介ではないという。日比野氏は「あくまでもこの空気感であり、感覚。だからこそ、UENOYESから地元に戻ったときに、『うちの商店街でもやってみよう！』と思ってくれたらうれしい」と思いを語る。

そのことで一体何が起きるのか――「ここでは知らない人と出会うことができる。人は知らないことに対して遠慮したり、怖いと思う部分があるが、アートはそれをつないでくれる」と日比野氏。表現者と鑑賞する人の距離が近いことで先入観が減り、拒否していたものに半歩・一歩と近づける。「見るだけ見てみようかなという気持ちになることがUENOYESの役割。この動きが、現代社会が抱えるあらゆる問題を解決するきっかけにもつながればと願っている」（日比野氏）。

2020年に向けて、こうしたアート・文化イベントは増える可能性がある。こうしたプロジェクトにアートが選ばれるのはなぜだろうか。それはアートの特性によるものだと日比野氏は見る。「アートは気持ちの揺らぎみたいなもの。作品そのものがアートではない。それを見たときに自分の中にアートが生まれる。気持ちを交換することがアートの元になっていると思う。だからこそアートは、いろんなものをつなぐことができる」（日比野氏）。

[画像のクリックで拡大表示]

今回の参加アーティストは、人や何かと関わることによって表現をしていくキュレーショナルアート的なことをするアーティストが多いという。例えばホセ・マリア・シシリア氏は、東日本大震災が起きた年から今までの8年弱、絶えることなく被災地を訪れている。

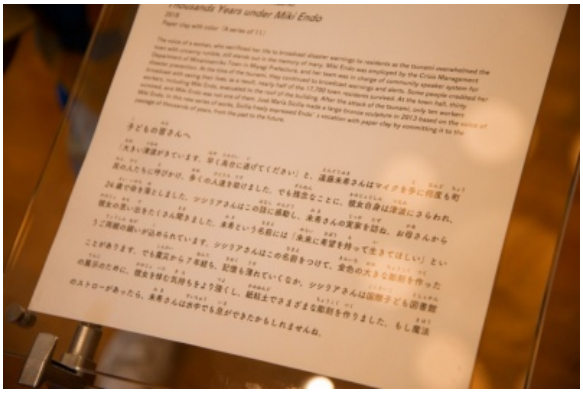
「社会とつながるアーティストをもっと育てていかなくてはいけないと感じている」と日比野氏は言う。そのために最近、福祉とアートの両方を学べる新たな授業を開講した。社会人でも受けることができるという。現代社会の抱える問題をアートで具体的に解決するのは難しいが、何かを解決するために芸術家は社会や福祉とどう関わっていくべきか。上野発信の新プロジェクトには、こうした思いも込められているようだ。

右：ホセ・マリア・シシリア氏　左：シシリア氏をキャスティングした岡部あおみ氏。写真は国立国会図書館国際こども図書館で行われたトークショーより

[画像のクリックで拡大表示]

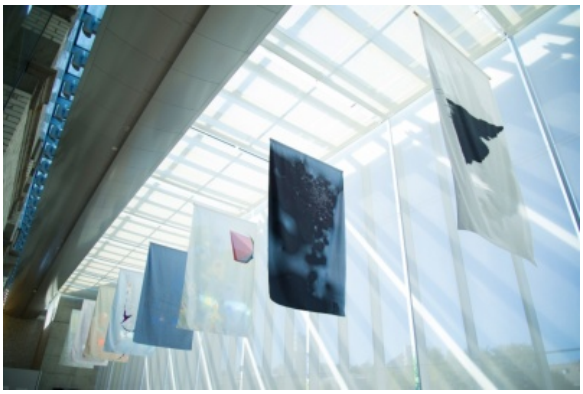
参加型プロジェクトとして、「紙粘土で3.11のイメージで和菓子を作る」というアートワークも行われた

[画像のクリックで拡大表示]



最後まで町民に津波警報を伝え続けた遠藤未希さんの声をモチーフに作られた作品のキャプション。子供にも説明文が読めるように漢字にふりがなをふる配慮も

[画像のクリックで拡大表示]



津波の時の海の音や鳥・人々の声をもとに作られた作品「アクシデントという名の国」

[画像のクリックで拡大表示]

日比野克彦氏

[画像のクリックで拡大表示]

（文・写真／志田彩香）

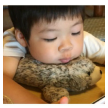
シェア 87　0　ツイート

ピックアップ　PR

- 【パナソニック×ぴあ】スタジアムでの体験価値を向上させる新ソリューション
- 第４次産業革命のデータ社会実現が、多様な「食」を維持していく
- どうなる？　人生100年時代の「食」と「健康」

アナタにおすすめ

その長さは世界クラス！一度は走ってみたい“日本最長”の橋
PR:TOYO TIRES


TOEIC160の37歳7日で英語ペラペラにしたスマホゲーム
PR:株式会社it's

ソニーのスマートホームサービス「MANOMA」がすごい！
PR:ソニーネットワークコミュニケーションズ

家の資産価値は築年数より「立地」ボロ家でも1000万円で売れた
PR:株式会社Speee

100銘柄を飲み比べ！注目の酒好きスポット！
PR:日本酒造組合中央会

上野動物園モノレール11月休止　「未来消費カレンダー」新着情報
日経クロストレンド

見込み客の集客に向くブラウザープッシュ通知
日経クロストレンド

<経営者様へ>従業員の人件費を賃貸収入でまかなう方法とは？
PR:株式会社ボルテックス